

7966 リンテック

西尾 弘之 (ニシオ ヒロユキ)

リンテック株式会社社長

大幅な増益を確保し、2期連続の二桁増益へ

◆スマートフォン需要などにより増収増益

当第2四半期の連結業績は、売上高 1,004 億 89 百万円(前年同期比 1.7%増)、営業利益 87 億 54 百万円(同 29.5%増)、経常利益 84 億円(同 23.3%増)、四半期純利益 60 億 59 百万円(同 26.7%増)となった。

売上高の内訳は、単体が 804 億 6 百万円(前年同期比 2.4%増)、連結子会社が 419 億 73 百万円(同 18.3%増)となった。営業利益の内訳は、単体が 48 億 83 百万円(同 31.7%増)、連結子会社が 37 億 32 百万円(同 17.7%増)となった。

売上高について、単体では消費税増税後の駆け込み需要の反動や、天候不順などによる個人消費の落ち込みが、一部製品の需要に影響を及ぼしたが、スマートフォンやタブレット端末の需要効果などによって、アドバンスマテリアルズ事業部門やオプティカル材事業部門が伸長したことなどにより、前年同期に比べ増加となった。

連結子会社では、インドやアセアン地域で、印刷・情報材事業部門や産業工材事業部門が堅調であったことに加え、台湾・韓国・マレーシアなどで半導体関連粘着テープや MLCC 製造用コートフィルムが順調に推移したことにより、前年同期に比べ増加となった。なお、連結子会社の売上高が 65 億円の増加となったが、今期からリンテック・シンガポール社の販売子会社 9 社を新たに連結対象としたことから、その売上高 34 億円が含まれている。しかし、これによる連結売上高への影響額は軽微である。連結ベースでの円安による売上高の増加影響額は約 19 億円であった。

営業利益について、単体では増益要因として、販売数量の増加および売上構成の改善で約 5 億円、海外子会社との利益配分の見直しなどによる影響額が約 3 億円、固定費の削減効果により約 5 億円、その他で約 2 億円あった。一方、減益要因として、円安などによるパルプや燃料の調達コストへの影響が約 4 億円あった。

連結子会社では、単体との利益配分の見直しによるマイナス影響があったが、海外子会社において、円安により単体および日本メーカーからの仕入コストがダウンしたことや、円貨換算額の押し上げ効果があった。なお、連結ベースでの円安による営業利益への増加影響額は約 6 億円となった。

◆電子・光学関連が好調に推移

セグメント別では、印刷材・産業工材関連については、印刷・情報材事業部門の売上高が 264 億 40 百万円(前年同期比 2.3%増)、産業工材事業部門の売上高が 163 億 7 百万円(同 4.3%増)となり、このセグメントの売上高は合わせて 427 億 48 百万円(同 3.1%増)、営業利益は 17 億 43 百万円(同 59.5%増)となった。

印刷・情報材事業部門では、シール・ラベル用粘着製品が、国内では消費税増税後の需要の落ち込みや、西日本を中心に台風・大雨などの天候不順の影響を受けたものの、前年同期並みを確保した。海外においてはタイ・インドネシア・ベトナムなどのアセアン地域で伸長したことにより、当事業部門は前年同期に比べ増加となった。

産業工材事業部門では、二輪を含む自動車用粘着製品がインドやアセアン地域を中心に堅調に推移したほか、ウインドーフィルムが中国市場において需要が回復したことにより、当事業部門は前年同期に比べ増加となった。

電子・光学関連については、アドバンストマテリアルズ事業部門の売上高が194億31百万円(前年同期比6.3%増)、オプティカル材事業部門の売上高が199億21百万円(同0.7%減)となり、このセグメントの売上高は合わせて393億53百万円(同2.7%増)、営業利益は51億96百万円(同72.5%増)となった。

アドバンストマテリアルズ事業部門では、半導体関連粘着テープがスマートフォンやタブレット用の需要効果により大幅に伸長し、半導体関連装置も堅調に推移した。また、MLCC 製造用コートフィルムもスマートフォンやタブレット用の需要効果によって好調に推移したことにより、当事業部門は前年同期に比べ増加となった。

オプティカル材事業部門では、液晶ディスプレイ関連粘着製品が、テレビの大型化などによる需要増加のほか、スマートフォンやタブレット用の需要効果があり、販売数量は増加した。しかし、国内および韓国・台湾向けのノンキャリア製品の需要が増加し、リントック単体での偏光フィルムへのダイレクト塗工製品の売り上げが減少したことにより、当事業部門は前年同期に比べ減少となった。

洋紙・加工材関連については、洋紙事業部門の売上高が80億63百万円(前年同期比2.4%増)、加工材事業部門の売上高が103億24百万円(同7.4%減)となり、このセグメントの売上高は合わせて183億87百万円(同3.4%減)、営業利益は17億68百万円(同34.5%減)となった。

洋紙事業部門では、主力のカラー封筒用紙が堅調に推移したほか、建材用紙や耐油紙などの需要が増加したことにより、当事業部門は前年同期に比べ増加となった。

加工材事業部門では、炭素繊維複合材料用工程紙が航空機用を中心に伸長したが、合成皮革用工程紙が中国国内の市況低迷の影響を受けて減少したことにより、当事業部門は前年同期に比べ減少となった。

◆2015年3月期通期業績の見通し

今期の第3四半期以降については、米国では底堅い個人消費などを背景に、堅調な推移を続けるものと想定されるが、欧州は景気回復に懸念が増し、中国を含む新興国やアセアン地域では、景気拡大のテンポが鈍化していくことが予想される。一方、我が国においては、消費税増税後の個人消費の落ち込みや輸出の停滞、物価の上昇などもあり、今後も不透明な状況が継続するものと想定される。このような経営環境を勘案し、当社では現時点において、今年5月8日に公表した今期連結業績予想の売上高2,100億円、営業利益160億円、経常利益155億円、当期純利益105億円を変更していない。

なお、今期中間配当金については、当初予想どおり1株当たり22円とした。期末配当金については、現時点においては当初予想の1株当たり22円を変更していない。

第2四半期までの連結業績は、前年同期に比べ大幅な増益を確保することができた。しかしながら、消費の低迷や原燃料価格の上昇など、当社を取り巻く経営環境は厳しさを増し、先行きはまだまだ予断を許さない状況にあると考えている。そのような中、今後も当社が持続的成長を遂げるために、国内外の当社グループ全社員が一丸となって努力していく。

◆質疑応答◆

今期上期の業績は期初の目論見に比べてどんな状態だったのかが知りたい。

当社は、上期の業績予想を公表していないが、利益面においてはほぼ想定どおりか若干上回った感じで上期を終えることができた。しかしながら、売上面では必ずしも満足できる状況ではなかった。

アドバンスマテリアルズ事業部門が好調で、収益が拡大したということだが、足元の状況はどうか、特に半導体関連粘着テープと半導体関連装置の、下期に向けての動向はどうか知りたい。

半導体関連粘着テープ、半導体関連装置および MLCC 製造用コートフィルムは足元でも好調で、この状況がしばらく続くと見ている。

洋紙・加工材関連は消費税増税の駆け込み需要の反動が上期に出たのか。これから需要期に入るので、戻ってくると考えていいのだろうか。

洋紙は3月に駆け込み需要が非常に大きくあり、4月以降はその反動の影響があった。また、加工材は炭素繊維複合材料用工程紙は航空機用を中心に堅調であったが、合成皮革用工程紙が主要市場の中国で需要が低調であった。

印刷・情報材事業部門の下期の動向はどうなるのかうかがいたい。

印刷・情報材事業部門は国内のウエートが非常に高いので上期には消費税増税の影響を大きく受け、また、天候不順の影響もあり、若干低調な推移となった。下期は回復していくと考えている。

(平成 26 年 11 月 17 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.lintec.co.jp/ir/library/presentation.html>